

【1】-A (10点満点)

【例1】

科学を目指す者は、風邪のような軽い病気は原因も単純で、深刻な病気は複雑なはずだと思ひ込んだり、データの不適切な比較によってがんを文明病だと結論づけるような、非科学的な考え違いを容認してはならない。(98字)

【例2】

科学者は迷信や誤謬を黙認してはならない。症状が軽い病気は原因が単純で、深刻な病気は複雑だとか、平均寿命を無視した比較で、がんは文明の病だとかいうような、非科学的な考えは批判しなければならない。(96字)

必須項目 (10点)	<p>① 「科学者は非科学的な考えを許容すべきではない」(2点) If you are a young scientist who wishes to keep your friends, you should not constantly be ridiculing or criticizing unscientific ideas; but you also owe it to your (future) profession not to tolerate superstition and fallacy. ▶ 「科学者」(scientist)に相当するものがないものは2点減点。 × 「研究者/研究職/学者」は「科学者」と認めない。</p> <p>② 「(下の③, ④)は 誤った思い込みである/容認すべきでない」(2点) ※③, ④は、キーワードがあっても、この部分と整合性がなければ得点を与えない。 Here are some false beliefs that will help exemplify the kind of criticism you should make. ▶ 「誤った思い込み」(false beliefs)に相当するものがないものは2点減点。 ○ 「容認すべきでない」(not to tolerate)は「誤った思い込み」と認める。 ○ 「批判すべきもの」(the kind of criticism you should make)は「誤った思い込み」と認める。 ○ 「非科学的な考え」(unscientific ideas)は「誤った思い込み」と認める。 ○ 「誤謬」(fallacy)は「誤った思い込み」と認める。 ○ 「迷信」(superstition)は「誤った思い込み」と認める。 ○ 「誤った考え[意見]/誤り/間違い/不合理」なども減点しない。</p> <p>③ 「軽い病気は単純な原因から生じ、深刻な病気は複雑で原因の特定や治療が困難だというのは、誤った思い込みである」(4点) What is wrong here is the widely held belief that clinically mild diseases have simple causes while serious diseases are deeply complex and are therefore more difficult to identify the causes of or to cure. ▶ 「軽い病気は単純」(mild diseases have simple causes)に相当するものがないものは2点減点。 ○ 「風邪」は「軽い病気」と認める。 ▶ 「深刻な病気は複雑」(serious diseases are deeply complex)に相当するものがないものは2点減点。 ○ 「ガン」は「深刻な病気」と認める。 ○ 「深刻な病気は複雑だが、軽い病気はそうでない」など、両方の意味が伝わるまとめ方であれば減点しない。</p> <p>④ 「『がんは文明病である』という思い込みも、データを適切に考慮すれば誤っている」(2点) Another example is that “cancer is a disease of civilization” — ... ▶ 「文明病」(disease of civilization)に相当するものがないものは2点減点。 ○ 「先進国[工業国]の病」は「文明病」と認める。 × 「現代病」は「文明病」と認めない。</p>
---------------	---

- ① 内容の不足は上記配分で減点。内容の順序は問わない。
- ② その他、誤訳、不適切な表現は程度に応じて1～2点減点。
- ③ 字数制限を満たさないものは0点。

【2】－A (12点満点)

【例1】

When trying to persuade others, you should distinguish between opinions and facts. Opinions are subjective beliefs or judgments, while facts are what can be objectively proven. When you express an opinion, you need to give reasons, which should be based on facts, not opinions. For example, the statement “Bananas are good for our health because everyone says so.” is not believable because the opinion is based on another opinion. To be persuasive, your opinion needs to be based on facts. (80 語)

(他人を説得しようとする場合には、意見と事実を区別すべきである。意見は主観的な信念や判断であり、事実は客観的に証明できるものである。意見を述べるときには理由を述べる必要があり、その理由は意見ではなく事実に基づいているべきだ。例えば、「みんながそう言っているからバナナは健康に良い」という発言は信用できない。なぜなら、意見の根拠が別の意見だからだ。説得力を持つためには、意見は事実を根拠にしている必要がある)

【例2】

Distinguishing between facts and opinions can lead to respect for different opinions. A fact can be proven true or false, but an opinion is not subject to true-false judgment because it is a personal view. Therefore, it is OK to say, “The fact your opinion is based on is false,” but we cannot say, “Your opinion is false.” It is essential to respect any opinion and then carefully judge the credibility of the facts on which it is based. (79 語)

(事実と意見を区別することは、異なる意見を尊重することにつながり得る。事実は真実か偽りかを証明できるが、意見は個人の見解なので真偽の判断の対象にはならない。したがって、「あなたの意見が根拠としている『事実』は偽りだ」と言うことはできるが、「あなたの意見は偽りだ」と言うことはできないのだ。どんな意見でも尊重した上で、根拠となる事実の信憑性を慎重に判断することが大切だ)

【例3】

To avoid being deceived by false information, it is important to separate opinions (or subjective statements) from facts (or objective statements). This helps us watch out for subjective expressions that may exaggerate things or generate strong emotions. However, what we should be more cautious of is information sources that mislead people with false data or selective facts. Fake news stories are typical examples. Having fact-checking skills, such as the ability to check multiple information sources, is critical. (77 語)

(誤った情報に惑わされないためには、意見(つまり主観的な発言)と事実(つまり客観的な発言)を区別することが大切だ。このことは、物事を誇張したり強い感情を誘発しかねない主観的な表現を警戒するのに役立つ。しかし、もっと気をつけなければならないのは、虚偽のデータや選択的な事実で人を惑わす情報源である。フェイクニュースはその典型例だ。複数の情報源を確認する能力といった、事実検証のスキルを持つことが非常に重要だ)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。
2. 語数制限(60～80語)を満たさないものは**0点**。
3. 内容面で下記に該当するものは、それぞれ該当の点数を減点。

【問題】

「事実 (fact) と意見 (opinion) の区別が大切だ」と聞くと、本当にそう言えるのか? もしそう言えるのなら、その区別はどこにあり、なぜ区別が大切なのか? 自由に考えて 60 ～ 80 語の英語で述べよ。

ポイント1 「事実 (fact) と意見 (opinion) の区別」の説明あるいは具体例 (6点)

- * 「事実 (fact) と意見 (opinion) の区別」に無関係なものは**6点減点**。
- * 「事実 (fact)」あるいは「意見 (opinion)」の誤解は各**3点減点**。

ポイント2 事実と意見の区別が大切な理由 (6点)

- * 事実と意見の区別が大切な理由がないものは**6点減点**。
- * 区別だけにしか触れていない(「大切だ/大切でない」に当たる趣旨がまったくない)ものは**3点減点**。
- * 論旨が一貫していないと採点者が判断できるものは**3点減点**。

【2】－B（ア 4点 イ 8点 計12点）

(B) 以下の下線部（ア）、（イ）を英訳せよ。

学問は常に何かの目的を有つであらう、(ア)目的を有たない学問はあり得ない筈である。(イ)併しそうであるからと云って、学問が常に学問ならぬ他の何ものかの手段でなければならぬということにはならない。

(ア)

【例 1】 it [It] should not be possible that learning doesn't have a purpose.

【例 2】 there [There] should be no such thing as studying without a goal.

【例 3】 there [There] cannot be academic research that does not have an aim.

(イ)

【例 1】 But, even though that is true, it doesn't mean that learning must always be a means for something other than learning.

【例 2】 Even then, however, it is not the case that the goal of study should always be outside of academics.

【例 3】 Yet even so, academic studies do not always have to be useful for some other non-academic purpose.

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。
2. 次の①～⑥の区分を目安に得点（各2点）を配分する。

(ア) (4点)

■学問は常に何かの目的を有つであらう、(ア)目的を有たない学問はあり得ない筈である。

※二重否定＝肯定と考えて、「学問は常に目的を有つ筈である」のように肯定で英訳したものは、下線部の前にある文を繰り返すことになるので、文脈無視として認めない（0点）。

- ①「～はあり得ない筈（はず）である」（2点）
- ②「目的を有（も）たない学問」（2点）

(イ) (8点)

- ③「併（しか）しそうであるからと云（い）って」（2点）
- ④「…ということにはならない」（2点）
- ⑤「学問が常に～でなければならぬ」（2点）
- ⑥「学問ならぬ他の何ものかの手段」（2点）

【4】－B（ア）（4点満点）

<問題部分> 下線部(ア)を和訳せよ。

That children naturally grasp what these “giants” stand for is illustrated by the reaction of a five-year-old.

<例 1>

こうした「巨人たち」が何を表しているか、子供は自然に察知しているのだ、ということは、ある5歳児の反応を見るとよく分かる。

<例 2>

この「巨人」が何を表しているのかを子供たちが自然に把握していることは、ある5歳児の反応が明瞭に示している。

区分	配点	具体事例
That children naturally grasp ～ ～を子供が自然に把握していることは	1点	×That が名詞節を導く接続詞であり That ～ for が文の主語だとわかっていないものは次の区分とまとめて減点（－2点） ×naturally に「当然」は不可。 ×grasp が what these “giants” stand for を目的語とする他動詞だとわかっていないものは不可。
what these “giants” stand for これらの「巨人」が何を表すか	1点	×what these “giants” stand for が名詞節だとわかっていないものは不可。 ×these の訳抜けは不可。 ×giants に「大人／ジャイアンツ」は不可。
is illustrated by ～ ～によって説明される [明らかに示される]	1点	×illustrate の訳に「イラストを描く／図解する」は不可。
the reaction of a five-year-old ある5歳児の反応	1点	×reaction に「反動／反作用／反射／リアクション」は不可。 ×five-year-old が名詞だとわかっていないものは不可。 ×five-year-old は、「子供」だけで「5歳」がないものは不可。

- ① 上記の区分に分けて配点。
- ② 語句の誤訳，訳漏れ，英語のまま，不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B (イ) (4点満点)

<問題>

下線部(イ)の内容を 30 字以内の日本語で説明せよ。句読点も字数に含める。

the message of the story

<例 1>

知恵を使えば巨人や大人という強大な相手に勝つこともできる。(29 字)

<例 2>

頭脳を使うことで、子供でも強大な大人を出し抜くことができる。(30 字)

- ① 31 字以上は 0 点。
- ② 次の (1) (2) が必須項目。

- (1) 「知恵を使って」に相当するもの（これがないものは**2点減点**）
 - × 「知恵／頭脳／頭」(brains)に相当するものがないものは不可。
- (2) 「大人を出し抜く」に相当するもの（これがないものは**2点減点**）
 - × 「大人(grownups)を出し抜く(outwit / get the better of)」に相当するものがないものは不可。
 - 「大人の裏をかく／大人に勝つ／大人を打ち負かす」など可。
 - 「(自分より) 強いもの」は「大人」と認める。

【4】－B（ウ）（4点満点）

<問題部分> 下線部(ウ)を和訳せよ。(ウ)は挿入句のあとの下線部も訳すこと。

while reading alone the child may only think that some stranger approves of tricking and cutting down the giant

<例 1>

子供が1人で物語を読んでいる場合だと、計略で巨人を倒すことをどこかの知らない人が容認している、としか思わないかもしれない。

<例 2>

1人で読んでいるときには、子供は、巨人をだまして打ち倒すことをよしとするのは見知らぬ誰かだと思っただけかもしれない。

区分	配点	具体事例
while reading alone 独りで読んでいると	1点	× while reading alone が reading に接続詞 while がついた分詞構文または while (he/she is) reading alone だとわかっていないものは不可。 × alone の訳抜けは不可。
the child may only think that ~ 子供は～と思うだけかもしれない	1点	× may (かもしれない/だろう) の訳抜けは不可。 × that が think の目的語となる名詞節を導く接続詞だとわかっていないものは不可。
some stranger approves of ~ 見知らぬ誰かが～を是認している	1点	
tricking and cutting down the giant 巨人をだまして倒すこと	1点	× tricking, cutting が動名詞だとわかっていないものは不可。 × tricking が他動詞で the giant が目的語だとわかっていないものは不可。 × giant に「大人/ジャイアント」は不可。

- ① 上記の区分に分けて配点。
- ② 語句の誤訳，訳漏れ，英語のまま，不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】－(A) (4点満点)

<問題>

下線部 (A) を和訳せよ。

a man she'd been out with only three times by my count

<解答例>

私の勘定では、母がそれまで3度しかデートしていない人

<別解例>

私が知っているかぎりでは彼女が3回だけデートした男

区分	配点	具体事例
a man she'd been out with 彼女 [母] がデートした男 (だった)	2点	× a man と she'd の間に with の目的語となる目的格関係代名詞の省略があることがわかっていないものは不可。 ○ been out with の訳は、「デートする」に近ければ「つきあう」など広く認める。 × been out に「外出する／出かける」は不可。
only three times by my count 私が数えたところでは3回だけ	2点	× only three times が副詞句だとわかっていないものは不可。 × times を回数ととっていないものは不可。

- ① 上記の区分に分けて配点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】－(B) (4点満点)

<問題>

下線部 (B) の内容を日本語で説明せよ。

this way

<解答例>

美貌は貯金と同じで、持っているだけではいけない。ここぞという機会に利用するものだ。

<別解例>

美人であることは貯金と同じく財産だが、持っているだけではなく、チャンスが来たら使わなければならない

- ① 次の (1) (2) が必須項目。

- (1) 「美人であること [容姿／容貌／外見／顔] は貯金と同じ」に相当するもの (これがないものは**2点減点**)
○ 「銀行口座／財産」などは「貯金」と認める。
× 「美人」だけで「貯金と同じ」に相当するものがないものはこの区分0点 (－2点)。
- (2) 「ここぞという機会に利用するものだ」に相当するもの (これがないものは**2点減点**)
× 「持っているだけではいけない」だけでは「ここぞという機会に利用するものだ」と認めない。